

全学学類・専門学群代表者会議 第一回本会議 議事録

[日時]2020/7/8

[場所]Microsoft Teams

[出欠]出席 57 遅刻 7 早退 1

[議題]令和二年度議長団選挙

[資料]

- ・ 20000_第一回本会議議事次第
- ・ 20001_令和二年度議長団選挙
- ・ 20002_参考資料 1_筑波大学の学生組織等について
- ・ 20003_参考資料 2_筑波大学における学生組織及びクラス連絡会等について

[会議の流れ] 開会→資料確認→出欠確認→議長選挙→副議長選挙→委員会報告→閉会

開会

資料確認

出欠確認

議長選挙

◇瀬邊（議長）

・ 議長の立候補を募る。立候補者は伊藤暢紀（知識情報・図書館学類）のみと認めた。演説とそれに対する質疑応答を行い、信任投票を行う。

◆伊藤（知識）

こんばんは。この度令和2年度全学学類・専門学群代表者会議議長に立候補する、知識情報・図書館学類2年の伊藤暢紀と申します。これから私がなぜ議長に立候補したのかについて、画面に映した資料とともにお話をさせていただきます。よろしく願いいたします。

こちらが本日お話をさせていただく内容になります。

- ①自己紹介
- ②全代会および筑波大学生が置かれている現状について
- ③ ②を受けて、私が考える全代会の活動方針について
- ④ 最後に議長職に対する決意

ひとつだけ、立候補演説ではありますが、今回話に出させたいいただいた内容について

全学学類・専門学群代表者会議 第一回本会議 議事録

構成員の皆様がそれぞれ自分の意見や考えを抱いていただければ何よりです。議長立候補者などの立場ではなく、全代会を構成するいちメンバーとしてそう思っております。

まず、伊藤の自己紹介をさせていただきます。

いとうのぶのり と読みます、知識情報・図書館学類 2 年次で全代会には 1 年次 2 年次と座長団として参加させていただいております。また、知識情報・図書館学類のクラス代表者会議においても、画面に映しているような様々なことを行わせていただきました。

それらの活動を通して、実にこれまでの方々が私の所属している学生組織に、後ろの世代へ残していってくださったものがあり、その恩恵を受けて、19 生として活動できているのだと感じています。それは、現在このようにオンライン上ではありますが、本会議として開催できているところにも表れています。

さて、私のほうから全代会および筑波大学生が置かれている現状についてお話をさせていただきます。といっても今年の春から流行した新型コロナウイルスの影響のお話になるだけです。

今この場にいる全員が新型コロナウイルスによって、新しい生活様式で活動することを余儀なくされました。それは授業が全面オンラインになったことだけでなく、新入生がつくばの地に足を踏み入れることなく、半年過ぎていくこととなっているのです。全代会においても活動は全面オンラインで行うこととなっています。

さて、ここからが私の一番話したいことであるのです。これからの全代会がどうなるか、私はそれについて今一度考える必要があると考えています。

自己紹介のところで、学生組織がここまで成り立ってきたというのが、先代が働き、受け継いできたノウハウや知識があつてからこそだと感じたとお話をさせていただきましたが、このオンライン活動の中でそれができるかどうか、ものすごく心配をしていました。

この話をする前に、極めて主観的ではありますが、全代会がどういう組織なのかについて話したいと思います。

全代会は学生の利益権利を守るために活動をしています。各委員会から、学生が直面している問題に対して働きかけたり、情報発信を行ったりしているのはそのためだと言えます。それらは全代会が行っているとはいえ、全代会構成員である学生が自発的に行っていることといえるのです。

この全代会構成員というのは全代会を関係づける一要素といえます。

関係要素、もしくは利害関係者といってもいいかもしれません。それは 3 つで、①大学②学生③構成員（学生）

全学学類・専門学群代表者会議 第一回本会議 議事録

全代会は大学に学則で認められており、そこに予算がついて、教員や職員の方々の協力もいただいております。また、全代会構成員ではない学生とも関係を当然持つわけでありませ

ず。これらの関係が崩れないことが、全代会が今後も活動を進めていくうえで必要不可欠なことであり、これからの全代会が良くなるのも、悪くなるのも③がどう①②、そして③に働きかけるかが大事だと言えます。

話を戻して、これらがこの新しい生活様式の中でも構成していけるかどうか、それを見ていかなければなりません。①については一部行えていると考えています。今まで全代会が行っている大学とのやり取りはオンラインで行えています。②についてもそうだと思います。

問題は③です。この構成員働きかけが、オンライン上でも行えているかどうかで、これからの全代会がどうなるかが決まってくると思います。

だからこそ、やりがいの創成と、次の世代へとつなげることが今後の活動において重要です。

今年度はそもそもスタートが遅くなってしまったからこそ、これからが皆さんの全代会活動の本番でもあり、私もそうなのです。

やりがいの創成の次世代への継承に向け、皆さんが全代会の構成員として活動していくため、先陣を切って道をつくり、そして責任をとって、共に戦っていく、

その決意をもって、議長に立候補したく存じます。

◇瀬邊（議長）

・伊東への質疑を受け付ける。

◆青木（生物学類）

全代会の価値の創造について。コロナによる現在の状況下、あるいは秋学期以降—コロナ明けということになるだろうが—における活動の、具体的見通しや展望などどのように考えているか。

◆伊藤（知識）

全代会の価値の創造といったが、皆さんの中でも全代会の組織を何かサークルとか三系とか、顕著な例ではオンライン授業に関するアンケートなどで、全代会の活動を知ってくださる学生もいるが、もちろんそうでない方もいる。そういった方々と関わろう、と言いつつもなかなかできていなかったのが今年の、これまでの全代会と思っている。その中で特に1年生がオンライン授業の関係で取り組みが見えない今だからこそ、（委員会名を出してしまっ

に求める声であるとか、学年歴のついて意見提出し、大学と話すというのは、私が演説で述べた通り、全代会をとらえる3つの関係要素の1つの「大学」という面で大きな関わりがある。大学側からも予算面でサポートしていただいております、こちらから意見を出してそれをくみ取ってもらい、より良い大学生活を作っていくことが、全代会の価値の創造になると考えている。また、学生自身もそうで、先ほど述べた授業関連のものは学生に還元されるものであり、価値創造につながると思っている。

一番は全代会構成委員自身が価値の創造をしてほしい。自分が全代会で活動してよかったなと思えるように、特に委員会活動が顕著な例だが、委員会活動に快く参加できている人がいると、本会議等でも意見が活発に出ると考えている。議長になった場合は委員長陣と連絡を取り合い、個々に目を光らせて、一人ひとりが全代会の活動（特に委員会の活動）で所属して気持ちがいい、委員自身が全代会を活用できていることを実感できるような取り組みをしたい。

秋学期からの取り組みについては、まだまだコロナの影響があつて、全代会としても、例年は委員会室に全員が集まっていたが、そういった形態は難しいかもしれない。また演説でも少し触れたが、総合選抜入試等に関しても全代会として取り組まないと、次の世代の人たちが全代会を知らず、クラス代表者会議すら成り立たなくなるかもしれないと考えているので、そういった部分にも取り組みたい。

◇瀬邊（議長）

- ・ 信任投票を行う。情報部門と議長が協力して匿名性が担保されたシステムで行う。

信任 56 不信任 0 保留 0

伊藤を令和二年度議長とすることが決定された。

副議長選挙

◇瀬邊（議長）

- ・ 議長の立候補を募る。立候補者は福沢益友（比較文化学類）、辻栄翔（社会工学類）と認めた。演説とそれに対する質疑応答を行い、信任投票を行う。

◆福沢（比文）

副議長に立候補いたします、福沢益友と申します。

まずは簡単に自己紹介からさせていただきます。

全学学類・専門学群代表者会議 第一回本会議 議事録

人文・文化学群 比較文化学類の2年生です。専攻についてはまだ少し悩んでいるのですが、現代思想・哲学やアメリカのポストモダン文学に興味があります。私自身、バイリンガルなので、翻訳と亡命文学も面白いと思っています。

全代会の常任委員会では、教育環境委員会と生活環境委員会に所属しております。ほか、新入生歓迎特別委員会としても活動いたしました。昨年は、一つ上の比較文化学類の先輩が教育環境委員会、生活環境委員会の両委員会で委員長を務めていらっしやったので、ご縁で両方の委員会をお手伝いすることになりました。また、全代会有志によるコーヒー同好会である珈琲・俺にも入っています。

今年の4月からは瀬邊議長に議長補佐として任命していただき、4月から現在までの全代会運営にあたって、微力ながら瀬邊議長とほかの議長補佐である伊藤くん、辻くんのお手伝いをしてまいりました。具体的には全代会説明会、研修会の準備や、学生生活支援室とのミーティングなどに参加いたしました。

さて、この度、副議長として立候補いたしましたのは、「来年度への引継ぎ」、「総合学域群への対策」、「全代会における女性参加率向上」の三点においてささやかながらお役に立てることがあるのではないかと思ったためです。

まず、「来年度への引継ぎ」について、みなさまご存知の通り、今年度は新型コロナウイルスの流行のため、大学では集会や入構までもが禁止され、オンライン授業が実施されたこと以外にも、そもそも学期の始まりが遅くなるといったさまざまなイレギュラーが生じており、全代会も例に漏れず、こうしたイレギュラーな事態の影響を十分に受けております。

座長団の選出方法をはじめとして、本会議や委員会活動の様子に至るまで、あらゆる活動が例年のように行えず、手探りの状況にあります。スライドに、昨年の主な全代会活動のうち、半年分を挙げておきましたが、これらのほとんどが後ろ倒しになったか、あるいは中止になってしまいました。全代会は毎年のルーティンで成り立つ側面もありますので、現在の1年生の方々が中心となって全代会を運営していく来年のために、十分な引継ぎを行う必要があると思っています。

自己紹介の際に申し上げましたが、二つの常任委員会に所属しているほか、新入生歓迎特別委員会の（一応）委員長補佐としても活動しておりましたので、全代会の持つ「ルーティン」や「日常」について来年度へ引継ぎをする際は、少しは貢献することができるのではないかと思った次第です。

つぎに、「総合学域群への対策」について、総合選抜入試についてご存知でない方がいらっしゃるかもしれませんので、簡略にご説明いたします。筑波大学では来年度より、前期入試のひとつの区分として総合選抜入試が実施されます。総合選抜入試では学類・専門学群の枠を超えて「文系」、「理系」の区分を選んで受験することができ、入学者は1年次のうち

全学学類・専門学群代表者会議 第一回本会議 議事録

は「総合学域群」に所属し、2年次から各学類・専門学群へと移行します。各学類・専門学群の定員数は変わりませんので、今年まで、学類・専門学群を選んで受験していた前期入試で選抜する人数を減らすことで調整しており、このことはすなわち、各学類・専門学群の1年生の人数が減ってしまうことを意味します。減少する人数は学類によって異なるのですが、スライドには特に大きく人数が変動する日本語・日本文化学類と知識情報・図書館学類を挙げておきました。

全大会の座長団はその半数以上が1年生によって構成されており、各学類・専門学群の1年生の人数減少は全大会に大きくかかわる問題であると思っております。昨年も総合選抜入試の実施に関連した全大会座長団の人数見直しの議題が意見聴取会にて提出されましたが、ひとつの合意には至りませんでした。今年度は、この問題について引き続き検討していく必要があります。

また、来年の総合学域群の入学者には、先輩がおらず、他の学類・専門学群のような新歓が用意されない可能性があります。この問題に関しても、全大会として、あるいは新入生歓迎特別委員会としてサポートしていく必要があると思っており、今年度の全大会の課題として積極的に関わっていきたいと思っております。

最後に、「女性の参加率向上」についてです。スライドに昨年と今年の座長団の男女比を書いておりますが、例年全大会は男性の座長団のほうが多いです。また、昨年は6つの常任委員会の委員長、議長と副議長を合わせて、一部兼任がございましたので計6人のうち、全員が男性の方でいらっしゃいました。

決してこの場で女性問題について言及しようとしているわけではなく、昨年から全大会の活動を行ってきたささやかな個人の所見に過ぎないということをご了承いただきたいのですが、全大会では男性がマジョリティであり、やはり異性ばかりいる場所は気の置けない空間にはなりにくいと思っております。

しかし、私は昨年、数少ない全大会の女性の先輩方にたいへんお世話になりました。個人の意見ではありますが、活発に活動している同性の構成員がいるだけで、大きく慰められた記憶があります。私がひとつ上の先輩方のお世話になったように、私も全大会の座長団になった女性の方々に決して肩身の狭い思いをさせないよう努めたいと思っております。

私が活発に活動することが、他の女性の座長団にどれほど影響するかは私も申し上げられないのですが、異性に少し相談しにくいことや、そのようなことでなくとも、何か聞きたいこと・物申したいことができた際は気兼ねなく話しかけていただけたらと思っております。

全代会には、今まで申し上げたこと以外にも、本会議の出席率向上や、一部のメンバーに負担が集中してしまうことなど、例年のように抱えている問題があります。今現在の活動形態では、言及できない点も多いのですが、引き続き取り組んでまいりたいと思います。

◆辻（社工）

みなさんこんにちは。社会工学類2年の辻です。この全代会では現在、総務委員会の情報部門部門長と総務委員長とまあほぼ仕事は終わりましたが、新入生歓迎特別委員会、あと議長補佐をやらせてもらっています。

今日は副議長に立候補したということで4つのお話をしたいと思います。

議長団は3人選ばれるので基本的なところは他の人に任せて、1からではなく、私が特に思う事だけを簡潔に話そうと思います。たぶん感染症流行に対応する対策、総合選抜入試対策、出席率に対する対応などは立候補される皆さん思っていることはほぼ同じなのでわざわざ話しません。

一つ目はなぜ私が全代会に入ったのか、そして全代会に所属する目的についてです。

私の本業は経営工学です。経営工学といっても色々分野が広いですし、何をやっているのか全く知らない方もいらっしゃると思うのですが、私のやっていることを簡単に言うと「何かを達成するためにどんな意思決定をすればいいのか。どうすれば効率よく意思決定ができるのか。またその決定の評価の研究」です。

だから人が集まって何か意思決定をするということにとっても興味があります。この筑波大学という大きな組織の中の代表者たちが集まって何かを決めるという現場は私の本業に役に立つと考えています。だからこの組織にいます。

二つ目はなぜ二つも役職を掛け持ちしているのにさらに副議長にまで立候補したのかということです。どうせ後の質問タイムで「大丈夫ですか？」などといわれるので先に答えておきますと大丈夫です。理由は、1年生がおらず、またイレギュラーで組織が不安定な状態が続いた今年の春先を議長補佐として乗り切ったからです。たぶんこれ以上に説得力のある理由はないと思います。

また、総務委員会に所属されていない方はご存じないでしょうが、事務部門と情報部門、特に情報部門ですが、のそれぞれに実行トップを置きました。この全代会という組織でありがちで、最悪の状態だと私が考えている委員長が一番手を動かして働いているという状況に陥らないためです。少し引いてみると目の前で見る時に見えないものが見えてくると考えているからです。

三つめはなぜ私が副議長に立候補したのかということです。

本当に正直なところ、私は別に副議長になりたくてたまらないわけではありません。色々時間が取られてしまい、ちょっと自分の時間の使い方で不健全だなと思うことも多々あります。個人的には副議長の1人は1年生がやったほうが柔軟でいい組織だと思うのですが、さすがに入学後に大学に立ち入ってもいない方に学生組織の代表をやれというのは心苦しく、また議長補佐を誰に頼むかという話を3月にした際に、2年生にも率先して立候補した人がいなかったことから、私がやるのが最も適しているのかなと思い立候補しただけです。ただ勘違いして欲しくないこととしては、別に副議長になりたくてたまらないわけではないが、なった際にはゴリゴリと色々なことを回していく予定です。

四つ目、最後のお話です。

最後は私が副議長になったときの全大会のビジョンについてです。ぼやっとしたものを言っただけでそれっぽく占めることもできますが、まあちゃんと具体的にどうするか示しておこうと思います。

この組織に属してると一年と少しなわけですが、私がこの組織に足りないのは計画だと思います。1年か長くとも2年間で人が入れ替わりますし、たぶん人によってガラッと方針が変わります。代謝がいい組織として評価もできますが、超長期的な経営ができていないと考えています。具体的には計画を立ててそれを実行して一定期間でそれを評価するということです。これはとても難しいことです。しかしこれをやらずして成長することはありません。学習の基本はフィードバックだと考えています。

そこで私が副議長になった際には少なくとも10年、15年レベルの超長期の全大会の基本計画を定めて、これを運用したいと考えています。そして一定期間でこれを見直し、何ができていて、何ができていないのか、何はダメで何は良かったのかをきちんと計算できるようにします。繰り返しますが、これは非常に難しいことだと思います。訓練と適切な評価軸が必要です。だから志高い仲間を集い、全大会という組織に最適化された方法を模索しなければなりません。

これは副議長にならなければできない事ではないと考えており、皆さんが私のことを副議長として適切でないと判断した際にも総務委員会として実行する予定です。現に総務委員会としての超長期的な計画の策定は始めています。では、なぜこれを副議長としてのプランに挙げたかという圧倒的に副議長ポジションの人間がこれに賛成していた方がやりやすいからです。みなさん、といっても特に2年生の方のほうがよく分かると思いますが何かあれば議長補佐に確認を取って一緒にそれを解決するという方針でこの組織は現在動いています。これを考慮するとどうしても議長補佐、まあつまり議長団のポジションでこれをコントロールして、委員会の垣根を簡単にまたげる人がいたほうが都合がいいわけです。私は何かをするときにそのミッション、まあ究極の目標と言い換えられると思うもの、何かということを入念に入れて行動するのですが、ホームページの議長団のところを見ると、「各委員会のとりまとめを行います」と書いてありました。何やら変な新しいこ

とを始めようとする奴に見えるかもしれませんが、このミッションに従っているということにすぎないのです。そして、ここで策定された計画こそが今後の全代会のミッションとして次世代の全代会員の心にとどめておくものになります。

また、社会工学のコアである評価ということの訓練を私は受けております。組織の一員が組織外で学習したことを組織に持ち帰って広めて、それによって組織が学習することを組織学習と経営学の用語でいうのですが、これがたくさん起きるのがいい組織だと考えています。

みなさん、夏休みも近いですが、何か計画は立てましたでしょうか。学問としてこれをやる、遊びとしてこれをやる、と小学生の時に決めた事があるでしょうか、それをきっちりと実行し反省まで行った方がどれくらいいらっしゃいますか。また、大学生になって、計画を立てるという発想すらない方もいらっしゃったのではないのでしょうか。だらだらと過ごし、宿題をやったなんとなくそれっぽくすることはできます。この組織においても同じことが言えるでしょう。

以上、長くなりましたがこの辺で私のお話は終わりにしたいと思います。

色々上手くいった場合についての話を語りましたが、実現するために踏まなければならないステップはたくさんあると思います。しかし、計画を立てるという計画だけでも立てておけば次の世代に託すことはできるでしょう。

ありがとうございました。

◇瀬邊（議長）

- ・福沢、辻への質疑を受け付ける

◆青木（生物学類）

辻に質問がある。10年、15年単位の超長期的な計画と言っていたが、具体的にはどのようなことを行うのか。

◆辻（社工）

まずは何かと揉めることの多い他の学生組織との線引きを行う。実際、明らかにうまく機能していない事例が多いため。例えばお金を集める権限は全代会にあるのに、それを運用する権限は他の学生組織にある。また委員会同士の仕事の線引きも曖昧である。今回の会議を開いたのが浅賀であるように、突然増えた仕事を誰がするのか振り分けが出来ていない。そのような点をきちんと整理したい。

また、他に実現可能性は低いかもしれないが、何か外部から手助けをしてもらった際に報酬を渡せるようにしたい。直近だと、新歓団体のピラやポスターが掲載されている新歓Webを外部の人達と協力して作成したが、働いてもらったのに何も報酬を渡せていない状

態である。全大会の予算でこれを出すには学生生活課と交渉する必要があると思う。ゆえにこの計画は1年程度では実現しない問題であると考えている。このような、1年では実現不可能な事例は私が把握していないものも含めて数多く存在していると去年の経験から考えている。

◇瀬邊（議長）

・ 信任投票を行う。情報部門と議長が協力して匿名性が担保されたシステムで行う。

・ 福沢

信任 56 不信任 0 保留 0

・ 辻

信任 55 不信任 0 保留 1

福沢と辻を令和二年度副議長とすることが決定した。

委員会報告

○総務委員会 事務部門

・ 物品申請を行った。

○総務委員会 情報部門

・ 勉強会を行った。

・ ネットワークのパスワード変更を行った。

・ サーバー移行にともなって過去の会議の録画、録音を破棄すべきか検討している。

○学内行事委員会

・ 学園祭中止に関する文書を作成した。

○教育環境委員会

・ 土曜授業に関するアンケートを調査委員会へ依頼。

・ 教育環境委員会の Google Drive を新委員と運用する予定。

○生活環境委員会

・ 明日から本格的に活動を開始する。

○調査委員会

・ 教育環境委員会からのアンケートを実施。

・ クラス代表者会議へのアンケート結果の共有を行っている。

全学学類・専門学群代表者会議 第一回本会議 議事録

○広報委員会

・次回の広報誌記事を執筆中。

閉会

以上 総務委員会 辻栄翔 作成